

何トナレハ此申立ハ判決ノ確定ヲ動カスモノニ非サレハナリ然レトモ死刑ノ如キ回復スヘカラサル結果ヲ生スルモノニ至リテハ疑義異議アルニ拘ラス之ヲ執行スルニ於テハ此申立ハ何ノ爲メニ許シタルカ其法意ヲ解スル能ハサルヘシ故ニ如斯刑ニ付テハ裁判所ニ停止ヲ命スルノ權アリトスヘキナリ禁錮ノ如キ刑ニ付テハ執行ヲ停止スルノ必要ナシ

第二章 復權

復權ノ制ハ被刑人ノ善行ニ復スルニトテ獎勵スルノ目的ニ出テタルモノナリ刑ノ結果ニヨリテ公權ヲ喪失シタルモノハ如何ニ過ヲ悔ヒ行ヲ改ムルモ終身良民ト齒スルコトヲ得ストセシカ其人ノ失望ハ却テ自棄ノ念慮ヲ惹起シ更ニ一層ノ惡事ヲ爲スコトヲ意ニ介セサルニ至ラン故ニ社會公益上ノ必要ヨリシテ復權ノ制度ヲ設ケ刑ニ依リテ喪失シタル公權及ヒ刑ニ依リテ生シタル無能力ヲ回復セシム

公權ヲ剝奪セラレタル者復權ヲ得ルニハ刑法第六十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ條件ヲ要ス

- 第一、主刑ノ執行ヲ終リタルコト
- 第二、主刑ノ執行ヲ終リタル日ヨリ五ノ年ヲ經過シタルコト但主刑ノ時効ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルヲ要ス
- 以上ノ年限ヲ經過シタル後ニ非サレハ復權ヲ請求スルノ權利ナシ故ニ刑事訴訟法ニ於テ定メタル復權ノ手續ハ皆此期間ヲ經過シタル後ニ行フモノト知ル可シ
- 然レトモ大赦ニヨリテ免罪ヲ得タルモノハ直チニ復權ヲ得又特赦ニヨリテ免罪ヲ得タルモノハ特ニ赦狀中ニ復權ヲ明記シタルトキハ直チニ復權ヲ得刑六法第十四條
- 若シ復權ノ明記ナキトキハ前ニ定メタル期間經過ノ後ニ非サレハ復權ヲ請求スルコトヲ得ス
- 刑事訴訟法ハ刑法ニ定メタル復權ヲ願ヒ及ヒ之ヲ與フルノ手續ヲ示シタルモノナリ而シテ其復權ハ一ニ刑ニ依リテ權利ヲ失フタルモノ、利害ニ關係スル

ヲ以テ官自ラ起リテ復權ヲ爲サシムルモノニ非スシテ第三百二十四條ニ規定セル如ク刑ノ言渡ヲ受ケタルモノヨリ刑法第六十三條ニ定メタル期間ヲ經過シタル後司法大臣ニ向テ之ヲ請願ス可キモノナリ而シテ此願ハ必ス書面ヲ以テセサルヘカラス其復權ノ願書ハ直チニ司法大臣ニ差出ス可キモノニアラスシテ現ニ住スル地ノ地方裁判所ノ檢事ヲ經テ差出ス可キモノトス蓋シ其現ニ住スル地ノ地方裁判所ノ檢事ハ被刑人ノ諸般ノ行狀ヲ熟知スルヲ以テ此檢事ヲ經由スルコトハ司法大臣カ復權ヲ許否スルニ當リテ大ニ利益アルモノナレハナリ第三百二十四條

復權ノ願書ニハ復權ヲ許否スル官廳ヲシテ調査ヲ爲スニ便利ナラシムル爲メニ其復權ヲ得可キモノナルヤ否ヤヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ附添スルコトヲ必要トス故ニ第三百二十五條ハ左ノ書類ヲ添ユヘシト爲シタリ

第一、判決ノ正本

判決書ハ其復權請願者カ如何ナル刑ニ處セラレタルカヲ證明スルモノナリ犯罪ノ性質ニヨリテ其刑ハ輕キモ破廉恥ノ最モ甚シキモノアリ又其刑重キ

モ道德上ニ於テ左程賤ム可キニ非サルモノアリ例ハ詐欺取財ノ犯罪ニヨリテ刑ニ處セラレタルモノト毆打罪ニヨリテ處罰セラレタルモノアラソニ詐欺取財ノ刑或ハ毆打罪ノ刑ヨリ輕キ場合ナキニ非サルモ若シ其毆打罪ノ被刑者ハ一時人ヨリ自己ノ名譽ヲ毀損セラレタリト誤信シ劇怒ノ情遂ニ禁スル能ハスシテ罪ヲ犯シタルカ如キハ彼ノ利慾ノ情ヲ制スル能ハスシテ他人ノ財物ヲ奪取シタルモノト比スレハ德義ヲ破ルノ點ニ於テ最モ輕シトス而シテ復權ハ失却シタル公權ヲ回復スルモノニシテ被刑人カ眞心悔悟シテ行狀ヲ改メ他ノ良民ト齒スルノ價値アル時ニ於テ之ヲ與フルモノナリ故ニ復權ヲ許否スルニハ嘗テ犯シタル犯罪ノ性質ハ大ニ關係アルモノナリ是レ判決正本ヲ差出サシメ嘗テ犯シタル犯罪ノ如何ナルモノナルヤヲ知ラシムル所以ナリ

第二、主刑ノ滿期特赦ト爲リ又ハ時効ノ成就シタルコトヲ證明スル書類

刑法第六十三條ニ規定シタル如ク主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過シタル後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得ルモノナレハ主刑ノ滿期ヲ證

明スル書類ヲ差出サシムルコトヲ要ス又特赦アリタル時ハ主刑ハ其特赦ニヨリテ執行ヲ止息シ滿期ト同一ナルヲ以テ特赦ヲ得タルモノ復權ヲ請願スルニハ其特赦ヲ證明スルモノヲ差出サ、ルヘカラス又刑法第六十三條第二項ニ主刑ノ時効ヲ得タルモノモ復權ヲ得ルノ資格アリトス故ニ其時効ノ成就シタルコトヲ證明スヘキ書類ヲ呈出セサルヲ得ス元來主刑ノ滿期トナリタル時ハ之ヲ證明スル書類ヲ得ルコトハ容易ナルヘシ例ヘハ監獄署ノ書類又ハ判決書ニヨリテ證明スルコトヲ得ヘシ特赦ニアリテハ特赦狀又ハ監獄署ノ書類ニテ證明スルコトヲ得ヘシ時効ハ受ク可キ刑ヲ受クスシテ經過シタル場合ニ生スルモノナレハ前二個ノ場合ニ於ケルカ如ク書類ヲ以テ證明スルコト困難ナル可シ然レトモ檢事ニ請求シテ時効成就ノ證明書ヲ得テ之ヲ差出スヲ得ヘク其他刑ノ執行ヲ逃レテ隱匿シタル土地ニ住居シタル人ヲシテ證明書ヲ作ラシメ之ヲ出スコトヲ得ヘシ是等ノ證明書ト雖モ判決ヲ爲スニ非サルヲ以テ判斷ノ材料ニ供スルモ敢テ妨クナシ

第三、假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタル證書

假出獄ハ刑法第五十三條ニ定タル如ク獄則ヲ遵守シ悔改ノ狀アルモノニ限リテ之ヲ許スモノナリ又監視ハ刑法第四十一條ニ定メタル如ク情狀ニ因リ行政處分ヲ以テ之ヲ許スモノナリ此假出獄又ハ監視ノ假免ハ復權ヲ得ルノ一條件ニハアラサルモ何レモ非行ヲ悔悟シテ其品行ヲ改メタル一ノ徵憑トナルモノナルヲ以テ復權ヲ許スニハ大ニ參考トナルモノナリ故ニ復權請願者カ假出獄監視ノ假免ヲ得タルモノナレハ之ヲ證明スヘキ書類ヲ得テ復權ノ願書ニ添ヘテ差出スコキモノナリ

第四、賠償及ヒ訴訟費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免カレタル證書

賠償及ヒ訴訟費用ノ義務ヲ果サスト雖モ刑法ニ定メタル條件ヲ具ヘ復權ヲ得可キ人ニシテ果シテ品行ヲ改メ良民ト齒シテ耻チス良民モ其嘗テ罪人タリシコトヲ意トセサル時ハ復權ヲ與フルモ妨クナシ然レトモ財産ノ負擔ヲ免脱セサルモノニアリテハ未タ一箇人ニ對シ又ハ社會ニ對シテ刑罰ヨリ生シタル責務ヲ履行セシモノト云フコトヲ得ス故ニ此免責ノ證書ハ之ヲ必要ノ條件トナサスト雖モ若シ差出サ、ル時ハ請願者ニ對シテ復權ヲ與フ可キ

ヤ否ヲ判断スルニ於テ大ニ影響アルヘシ其責任ヲ盡サ、ル人ニ在リテハ復
權ノ價值ナキモノ多カルヘシ

第五、復權請願者ノ過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

本項ノ證明ハ公權ヲ回復セシムルニ適當ナル人ナルヤ否ヲ調査スルニハ最
モ必要ナルモノナリ例ヘハ品行ハ別段ニ賤シム可キモノニ非サルモ若シ一
定ノ住居モナク又はト云フ生計ノ道モナキモノナラフニハ未タ公權ヲ與ヘ
テ良民ト齒セシムルノ資格アルモノトナス能ハス

以上述ヘタル證明ハ第三百二十五條ニ依レハ復權ノ願書ニ添フ可シトアルヲ
以テ必要條件ニシテ之ヲ添ヘサル時ハ復權ヲ得ルコト能ハサルカ如シ第二號
ノ書類ハ復權ノ必要條件ヲ證明スルモノナルヲ以テ必ス之ヲ要スヘキモ其他
ノ書類ニ至リテハ只復權ノ許否ヲ判断スルノ材料ニ供スルモノニシテ必要條
件トスルニ非ス

第三號ノ假出獄監視ノ假免ノ證書ノ如キハ其之ヲ得タル者ハ之ヲ差出スヘシ
ト云フニ過キス若シ否ラストシ之ヲ必要條件ト爲スニ於テハ假出獄監視ノ假

免ヲ得タル以外ノ受刑人ハ終ニ復權スルコトヲ得サルヘキナリ

以上ノ書類ヲ添ヘタル願書ハ請願者カ現ニ住スル地ノ地方裁判所ノ檢事ニ差
出スモノニシテ檢事之ヲ受取リタル時ハ其請願者ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲
シ其書類ニ意見書ヲ添ヘテ之ヲ檢事長ニ差出ス可シ第三百二十六條復權ノコトハ本
來行政處分ニ屬シ檢事ハ單ニ意見ヲ附シ其事件ヲ檢事長ニ送附スルニ止マラ
スシテ其送付前ニ必要ノ取調ヲ爲スノ責務アリトス其送付ヲ受ケタル檢事長
ハ更ニ必要ナル取調ヲ爲シ復權願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣
ニ差出ス可キモノトス第三百二十七條

司法大臣ハ檢事長ヨリ復權願ニ關スル書類ヲ差出シタル時ハ其書類ヲ檢閱シ
之ニ意見書ヲ添ヘ速カニ上奏ヲ爲ス可シ第三百二十八條刑法第六十五條ニ曰フ如ク
復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラス憲法第十六條故ニ司法大臣ハ復權ノ願ヲ許否
スルノ職權ヲク意見ヲ具シテ上奏ヲ爲スニ止マリ許否ハ勅裁ニアリトス蓋シ
復權ハ裁判ノ威力ヲ變更スルモノナレハ行政官廳ハ勿論裁判所ト雖モ爲シ得
ヘキモノニ非ス只最上主權ノ勅裁ニヨリテ其變更アルノミ故ニ司法大臣ヨリ

復権ノ上奏ヲ爲シタル時ハ勅裁ニヨリテ其願書ヲ却下シ又ハ裁可アルモノナ
 リ
 勅裁ニ因リ復権ノ願書カ却下セラレタル場合ニ於テハ司法大臣ヨリ其旨ヲ檢
 事長ニ通知シ檢事長ヨリ其願書ヲ差出シタル檢事ニ通知ス可シ第三百二十
 九條第一項
 復権ヲ請願スル者ハ其願ヲ爲スカ爲メニハ自己ニ對シテ一ノ不利益ナクハ
 出來ル丈クハ之ヲ爲サント欲スルハ常ナリ而シテ復権願ハ請願ナレハ裁判ト
 異ナリテ一度却下セラレタリトテ其請願ノ權利ヲ失却スルモノニ非ス故ニ却
 下ヲ受ケタル者ハ又直チニ請願ヲ爲スヤモ計ラレス然レトモ今日復権ヲ得可
 キノ價值ナキ人トシテ却下セラレ明日直チニ其價值ヲ得ルノ理由アルコトナ
 クレハ再ヒ復権願ヲ爲スニ付テハ法律ハ制限ヲ定メタリ即チ復権願ノ却下ヲ
 受ケタル場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期間ノ半ハテ經過スルニ非
 テレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得スト第三百二十
 九條第二項刑法第六十三條ニヨレハ主刑
 ノ終リタルヨリ五年ヲ經過スルノ後公權ヲ回復スルコトヲ得又主刑ノ期滿免
 除云々五年ヲ經過スルノ後亦同シトアルヲ以テ復権ノ再請願ヲ爲スモノハ却

下ヲ受ケタル日ヨリ二年半ヲ經過シタル後ニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得
 ス其二年半ヲ經過シタル時ハ第一ノ請願ニ於テハ未タ復権ヲ與フヘキ價值ナ
 シト爲シタルモノモ其後ノ歲月間ニ於テ眞心悔悟シテ復権ヲ得ルノ資格ヲ具
 フルコトアルヘシ而シテ其再ヒ復権ヲ願フ者ハ始メノ請願ト同一手續ニ從フ
 テ之ヲ爲スヘキナリ第三百二十
 九條第三項蓋シ第一ノ復権ヲ却下セシ時ハ其人ニ對シテ
 復権ヲ得セシムルノ資格ナシトシタルハ其願書及ヒ證明書ハ用ヲ爲スモノニ
 非ス故ニ再ヒ請願ヲ爲ストキハ更ニ其資格アルコトヲ證明セサルヘカラス
 復権ノ裁可アリタル場合ニ於テハ司法大臣ヨリ復権ノ裁可狀ヲ檢事長ニ送致
 シ其送致ヲ受ケタル檢事長ハ之ヲ願書ヲ差出シタル地方裁判所ノ檢事ニ送致
 スヘシ其裁判所檢事ハ一面ニハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下附シ他ノ一面ニハ刑
 ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其原本ハ檢事局ニ保存ス可
 シ而シテ其裁可狀ノ謄本ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ復権ノ裁可アリタル旨ヲ
 判決原本ニ記入シ置ク可キナリ第三百
 三十條
 復権ノ裁可ヲ得タル願人ニアリテハ剝奪セラレタル公權ヲ回復シ他ノ良民ト

同一ニ公權ヲ行フコトヲ得ルモノナリ然レトモ刑法第六十三條ニハ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得トアリテ復權ハ既往ニ遡ルモノニ非ス故ニ復權ノ裁可ヲ得タルモノト雖モ其裁可以前ハ公權ナキモノニシテ復權ヲ得タリトテ以前ニ遡及シテ之ヲ行ハント主張スルコトヲ得ス又衆議院議員選舉權ノ如キハ選舉期日ノ前ニ於テ復權ヲ得ルモ選舉人名簿確定後ナルニ於テハ確定前ニ遡及シテ選舉權ヲ行フヲ得ス

刑事上ノ復權ト商事上ノ復權ハ別種ノモノニシテ之ヲ混淆スルコトナカルヘシ商法第千五十四條ニ依レハ破産宣告ヲ受タル債務者又ハ破産シタル商事會社ノ無限責任社員若クハ取締役ハ其破産ノ制裁トシテ取引所ニ立入ルコト仲立人ト爲リ合名會社若クハ合資會社ノ社員ト爲リ又ハ株式會社取締役ト爲ルコト清算人破産管財人若クハ商事代人ノ職ヲ執ルコト商業會議所ノ會員ト爲ルコト其他商業上ノ榮譽職ニ就クコトヲ得サルモノトス是等ノ失權ハ復權ノ申立ニ依リ後日之ヲ回復スルコトヲ得商法第千五十五條以下然レトモ其失權ハ刑ノ結果ニ非スシテ破産宣告ヨリ生スルモノナレハ其復權ハ破産ノ結果ヲ除却スルモ

ノナリ刑事上ノ復權ハ刑ノ執行ヲ消滅セシメ其結果ヲ除却スルモノナリ其手續ニ於テモ彼ハ破産裁判所ノ決定ヲ以テシ是ハ勅裁ニ因ルカ如キ大差アリ斯ク其名ハ均シク復權ナルモ其性質ヲ異ニスルヲ以テ刑事上ノ復權ト必シモ併行スルモノニ非ス商事上ニ於テハ復權スルモ刑事上ニ於テハ復權セサルコトアルヘシ然レトモ刑事上ノ復權アリシトキハ商事上ノ復權ト同一ノ結果ヲ生スルコトアリ以下ニ之ヲ述ヘン

有罪破産就中詐欺破産ニ付テハ前ニ述ヘタル商事上ノ失權ト刑事上ノ公權剝奪ト併存スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ破産者ハ商法第千五十八條ノ條件ニ從ヒ商事上ノ復權ヲ得タルトキト雖モ刑事上ノ復權アルニ非サレハ刑法第三十一條第一號乃至第七號及ヒ第九號ノ公權ヲ回復セサルヤ論ヲ俟タス然レトモ其第八號ノ分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權ニ至リテハ商法第千五十四條ニ於テモ會社ノ取締役清算人若クハ破産管財人ト爲ルノ權ハ商事上ノ復權ニ依リテ之ヲ得ルモノトスルカ故ニ商事上ノ復權ヲ以テ刑事上ノ復權ノ有無ニ拘ラス刑法第三十一條第八號ノ公權ヲ回復スル

モノ、如シ然レトモ商法ハ其否ラサルノ精神ヲ明ニシ其第千五十八條ニ復權
 ハ詐欺破産ノ爲メニ判決ヲ受クタル破産者ニハ之ヲ許サ、ルモノトセリ故ニ
 此破産ニ依リ輕懲役ニ處セラレタル者ハ商事上ノ復權ヲ得ルコトナシ
 然レトモ刑法ハ罪ノ性質ニ依リテ復權ヲ許スルノ區別ヲ爲サ、ルヲ以テ詐
 欺破産者ト雖モ或ハ刑事上ノ復權ヲ得ルコトアルヘシ此場合ニ於テ商法第千
 五十四條ニ列舉セル權利ノ中例ヘハ株式會社ノ取締役ト爲ルコト及ヒ清算人
 若クハ破産管財人ノ職ヲ執ルコトノ如キハ刑事上ノ復權ニ因リテ此破産者ト
 雖モ回復スルコトヲ得ルカ將タ商法第千五十八條ニ詐欺破産者ニ復權ヲ許サ
 スト規定セシハ刑事上ノ復權ニマテ右ノ權利ニ付テハ制限ヲ與ヘタルモノナ
 ルカ刑法第三十一條第八號ノ所謂分散人ノ管財人又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管
 理スルノ權ト商法第千五十四條ニ列舉スル會社ノ取締役清算人破産管財人ト
 爲ルノ權ハ同一物ナルコトハ多辯ヲ要セスシテ明ナリ少クモ分散人ノ管財人
 ト破産管財人トハ異別ノ管財人ナリトハ云フヲ得ヘカラス刑法ヲ頒布スルノ
 當時ニテハ分散破産ノ區別ナク民事商事共ニ分散ノ名稱ヲ用ヒタレハ刑法ノ

分産ニハ破産ヲモ包含スルモノト云ハサルヲ得ス然レトモ商法第千五十八條
 ハ刑事上ノ復權ヲ得タル者ト雖モ是等ノ權利ヲ回復スルコトヲ得スト云フニ
 ハ非サルナリ本條ハ詐欺破産者ハ破産裁判所ニ復權ノ申立ヲ爲スモ裁判所之
 ヲ許サスト云フニ在リテ若シ最上主權カ刑ノ結果ヲ全ク消滅セシムルカ爲メ
 刑事上ノ復權ヲ與ヘ其結果トシテ取締役清算人管財人トナルノ權ヲモ回復セ
 シメタルトキハ其人ハ別段破産裁判所ニ復權ノ申立ヲ爲スノ必要ナケレハ第
 千五十八條ノ爲メニ回復シタル權利ノ行使ヲ妨ケラル、コトナカルヘシ既ニ
 是等ノ權利ハ刑事上ノ復權ニ因リテ回復スルコトヲ得ルモノトスル以上ハ第
 千五十四條ニ掲舉セル其他ノ權利即チ取引所ニ立入ルコト仲立人ト爲リ合名
 會社若クハ合資會社ノ社員ト爲リ商事代人ノ職ヲ執ルコト商業會議所ノ議員
 トナルコト其他商業上ノ榮譽職ニ就ク權利ノ如キモ刑事上ノ復權ニ因リテ之
 ヲ行フコトヲ得ルモノトスヘシ何トナレハ是等ノ權利ハ公益ニ關スルヲ以テ
 破産者ニ之カ行使ヲ禁ス然ルニ其人既ニ公權ヲ回復シ刑ノ結果サヘ全ク除却
 セラレタレハナリ

第三章 大赦及ト特赦

大赦特赦共ニ刑ノ執行ヲ消滅セシムルモノナリト雖モ其性質ニ於テハ大ニ異ナル所アリ大赦ハ社會ヲシテ全ク罪ヲ遺忘セシメ初ヨリ罪ナク刑ナキモノト見做スニアリ故ニ刑ノ言渡ヨリ生シタル諸般ノ結果ハ悉ク之ヲ除却ス特赦ハ只刑ノ執行ヲ免スルニ止マリ罪アリ刑アリ其人ハ依然刑人タルヲ免カレヌ故ニ其刑ノ結果尙ホ存スルコトアルヘシ

今大赦ト特赦ニ付テ其重ナル差異ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、大赦ハ事件ニ對シテ行フモノナリ即チ明治二十二年憲法ヲ發布セラレユ當リ其盛典ヲ表シ惠澤ヲ施サル、カ爲メ勅令第十二號ヲ以テ行ハセラレタル大赦ハ人ニ對シテ行フニ非ス本勅令發布以前ニ於テ何々ノ罪ヲ犯シタル者ハ赦免ストアリテ刑人ノ何人タルヲ問ハス本令ニ指定シタル法律ヲ以テ處罰シタル者ハ之ヲ赦免セラレタリ

特赦ハ人ヲ目的トシ事件ニ對スルモノニ非ス後ニ見ル如ク刑事訴訟法ニ規

定セル特赦ノ手續ハ皆人ヲ指定シテ之ヲ行フモノトス故ニ同一ノ事件ニテ處罰セラレタル者ト雖モ一ハ特赦ヲ受ケ他ハ之ヲ受ケサルコトアリ

二、大赦ハ犯罪行為ナキモノトスルヲ以テ全刑ノ執行ヲ免スルニ止マラス其裁判ノ全部ヲ消滅セシム特赦ハ犯罪行為ナシトスルニ非サルヲ以テ全部若クハ一部ノ執行ヲ免スルマテニシテ其裁判消滅スルコトナシ然レトモ私訴判決ハ公訴判決ニ附帶スルモノナリト雖モ一旦裁判アリタル以上ハ一方ニハ民事上ノ權利ヲ得他ノ一方ニハ之ニ對スル義務ヲ生スルモノナリ而シテ其權利義務ハ私益上ノ關係ナレハ大赦特赦ヲ以テ之ヲ動カスモノニアラス

三、大赦ハ必シモ裁判後ニ之ヲ行フニ非ス裁判前ト雖モ大赦ヲ以テ公訴ヲ消滅セシムルコトヲ得ルモノナリ刑訴第六條第五條蓋シ大赦ハ事件全体ヲ犯罪行為ニ非スト爲スモノナレハ未ダ裁判アラサル前ニ於テ總テノ刑事訴訟ヲ止息セシムルコトナカラサルヘカヲサレハナリ特赦ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス同第三條第三十一條

四、大赦ハ國事犯若クハ特別犯罪事件ニ對シテ行フノミ明治廿二年勅令第十

二號大赦令ノ如キハ皇族ニ對スル罪國事ニ關スル罪兇徒聚集罪保安條例集會條例爆發物取締罰則新聞紙條例出版條例罪ニノミ大赦ヲ行ハセラレタリ
特赦ハ一般ノ犯罪ニ適用シ國事常事ヲ區別セス

五、大赦ニ因リテ赦免セラレタル者ハ直チニ復權ヲ得ルモノトス蓋シ罪ナク刑ヲクレハ一時失フタル公權ハ他ノ手續ヲ要セス當然回復スヘキナリ之ニ反シ特赦ハ罪ナシトスルニ非スシテ只其刑ヲ免スルマテナレハ其赦狀中ニ復權ノ事ヲ記載シアルニ非サレハ之ヲ得ヘカラス刑法第十四條第六

六、大赦ヲ受クタル者ハ再ヒ罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論セス特赦ヲ受クタル者ハ再ヒ罪ヲ犯ストキハ再犯加重例ニ依リテ處斷ス是レ一ハ先キニ犯シタル罪ナク受タル刑ナク他ハ一度罪ヲ犯シ刑ヲ受クタルモノナレハナリ

大赦特赦共ニ 天皇ノ惠澤ニ出ルモノナリ故ニ之ヲ與フルト否サルトハ刑事ニ關スル法律ノ支配スル所ニ非ス殊ニ大赦ハ專ラ施政上ノ便宜ニ出テ他ノ上奏ヲ俟タス許與セラレ、モノナレハ憲法第十六條ニ大赦ヲ命スルノ大權ヲ記載シタルノ外別ニ其手續等ヲ規定シタル法律ナシ特赦ハ刑人カ行狀ヲ改メ其

刑ヲ免スルモ社會ニ於テ危險ナシトシタルトキ司法部ヨリ上奏スルモノトナスカ故ニ刑事訴訟法ニ其手續ヲ規定セリ

特赦ニ二種アリ一ハ刑ノ全部ヲ免スルモノ之ヲ單ニ特赦ト云ヒ他ノ一ハ刑ノ一分ヲ免スルモノ之ヲ減刑ト云フ減刑ノコトハ刑法及ヒ刑事訴訟法ニ明文ナシト雖モ憲法第十六條ニ 天皇ハ特赦減刑ヲ命ストアリ特赦ノ一種ニシテ刑ノ性質ヲ變スルモノニ非ス刑期ヲ減縮スルノミ若シ刑ノ性質ヲ變更スルトキハ裁判ヲ變更スルモノニシテ特赦ノ性質ニ反ス

特赦ハ刑ヲ言渡シタル裁判カ法律ニ基キ被告人ノ權利トシテ上訴スルコトヲ得ヘキ程度ニアルトキハ之ヲ與フヘキモノニ非ス故ニ第三百三十一條ハ刑ノ言渡確定シタル後ニ申立ツルコトヲ得ルモノト規定セリ判決カ猶上訴期間中ニアルトキハ被告人自ラ其判決ヲ攻撃シテ變更セシムルコトヲ得可キヲ以テ敢テ特赦ノ必要ナシ若シ事件カ第二審ニ在ルトキ特赦ヲ與フルトセンカ上告ヲ爲シテ其結果最上權ノ與ヘタル特赦ノ效力ヲ變更スルカ如キ奇怪ナル結果ヲ生セン特赦ハ刑ノ言渡確定後ニ行フモノニシテ法律ハ其期間ヲ定メス第三

百三十一條ハ言渡確定後ハ何時ニテモ之ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトセリ
特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ何人ナルカ第三百三十一條ハ左ノ官吏ノミ
申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ

第一、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所檢察

第二、監獄署長

監獄署長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ストキハ檢察ヲ經由ス可シ其申立ヲ受ケタル
檢察ハ必ス意見書ヲ添ユヘキモノトス

檢察又ハ監獄署長ヨリ特赦ヲ申立ツルニハ犯人ノ情狀ヲ具申シ特赦ノ許否
ニ付充分ナル調査ヲ爲スコトヲ得ル材料ヲ備フルヲ要ス而シテ特赦ハ裁判
事務ニ非サルヲ以テ裁判所ニ爲ス可キモノニ非スシテ司法行政ノ首領タル
司法大臣ニ爲スモノトス又特赦ハ 天皇ノ大權ニ屬スルヲ以テ司法大臣ハ
檢察若クハ監獄署長ヨリ特赦ノ申立アリタル時ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ上
奏ヲ爲ス可キナリ

第三、司法大臣

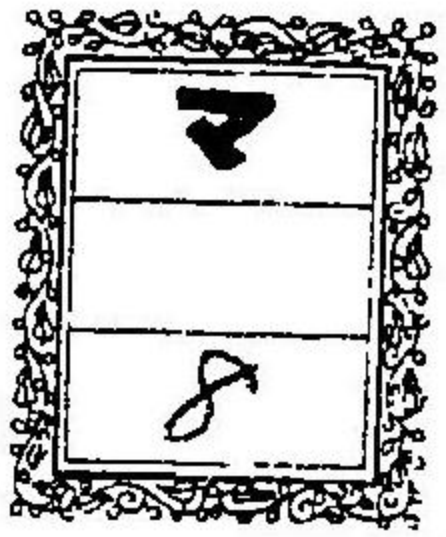
司法大臣ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得
百三十 條 檢察又ハ監獄署長ヨリ特赦ノ申立アリタルキハ司法大臣ハ特赦ノ申
立ニ意見書ヲ添ヘテ上奏ス可キモノナルコトハ上ニ見タル如シ司法大臣ハ
獨リ此場合ノミナラス自ラ特赦ノ申立ヲ爲スヘシト思惟シタル時ハ其上奏
ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ何トナレハ特赦ハ司法部内ノ行政事務ニ屬スレ
ハナリ

復權ニ付テハ既ニ講述シタル如ク被刑者本人ヨリ之ヲ申立ツルコトヲ得然ル
ニ特赦ニ付テハ被刑者自ラ申立ツルノ權ナク檢察監獄署長司法大臣ノミ之ヲ
申立ツル權アリトス復權ト云ヒ特赦ト云ヒ均シク確定判決ヲ以テ執行ス可キ
刑ノ結果ヲ免カル、モノナリト雖モ其性質ニ於テ差異アリ復權ヲ願フモノハ
何レモ刑ノ執行ヲ終リタル後ニ在ルヲ以テ已ニ社會ノ監守ヲ脱シ其身体ハ自
由ナリ唯其民ト同一ノ位置ヲ得サルノ結果アルノミ故ニ其復權ヲ得ルト否ト
ハ公益ヨリモ寧ロ私益ニ關スルモノナリ故ニ本人ヨリ之ヲ請求セシムルコト
ヲ得ルモ敢テ公權自ラ進メテ之ヲ與フルコトナシ之ニ反シテ大赦特赦ハ猶未

タ社會カ被刑人ニ對シテ自由ヲ與ヘサルノ必要アリトシテ監守シ刑罰ノ威力ハ嚴行セラル、ノ時ナレハ事皆公益ニ關シ被刑人ノ請願ヲ容ル、ノ時ニ非ス唯一ニ主權者ノ惠澤ヲ以テ與フルモノナレハ之ヲ申立ツル者ハ公權ノ機關タル官吏ナリトス

特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セサルヲ以テ原則トス第三百三十條 監獄署長又ハ司法大臣ヨリ特赦ノ申立ヲ爲シタリトテ毫モ被告人カ受タル刑ヲ動カスヘキモノニ非ス彼ノ上訴ノ場合ニ於テ刑ノ執行ヲ停止スルハ畢竟上訴ハ被告人ノ權利ニシテ其刑ノ執行ト其權利ノ行使ト並ヒ行ハレサルヲ以テ停止スルモノナリト雖モ特赦ノ申立ニ至リテハ一モ被刑人ノ權利ニ非サルヲ以テ刑ノ執行ト並存セサルノ理由ナシ特赦ノ裁可アラサル限リハ其刑ハ依然トシテ行ハレサルヲ得ス然レトモ刑罰中ニ於テ死刑ハ他ノ刑ヨリモ回復ス可カラサルモノナルヲ以テ特赦ノ申立アル時ハ例外トシテ停止セサルヘカラス第三百三十條 上奏ノ後特赦ノ申立却下トナリタル時ハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁

判所ノ檢事ニ通知ス第三百三條 然レトモ之ヲ被刑人ニ通知スルノ必要ナシ 特赦ノ裁可アリタル時ハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ特赦狀ヲ送致ス可シ第三百三條 而シテ其送致ヲ受ケタル檢事ハ特赦狀ノ謄本ヲ一方ニ向テハ被刑人ニ下附シ他ノ一方ニ向テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ送致ス其裁判所ハ之ヲ判決ノ原本ニ記入スルモノトス 司法大臣ヨリ特赦ノ申立ノ却下ヲ通知シ又ハ特赦狀ヲ送致ス可キハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ナリトス其現ニ刑ノ執行ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ通知又ハ送致ヲ爲スヘシトハナサ、ルナリ故ニ上告ニ依リ據律ノ錯誤アリトシテ上告裁判所自ラ刑ノ言渡ヲ爲シタルモノニ係ル時ハ其却下ノ通知又ハ特赦狀ノ送付ハ上告裁判所ノ檢事ニ之ヲ爲スヘシ蓋シ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ裁判ノ結果ヲ知ルヘキモノナレハ此檢事ノ知ラサルニ刑ノ執行ヲ免スルカ如キコトナカラシメンカ爲メナリ 復權ニ付テハ其願却下セラレタル時ハ或期間ヲ經過スルニ非サレハ再ヒ願ヲ爲スコトヲ得サルノ制限アリ是レ復權ハ本人ヨリ爲スモノナルヲ以テ此制限



ヲ置クノ必要アリト雖モ特赦ハ官憲自ラ申立ヲ爲スモノナレハ此制限ヲ置ク
ノ必要ヲ見サルナリ

六〇六

刑事訴訟法講義畢

四一

四
八

